



がんセンターたより

神奈川県立がんセンターの独法化と 総長に就任して

総長

小林 理

Osamu Kobayashi



平成22年4月1日付で総長に就任しました。昨年は病院長として大崎所長を補佐してまいりました。伝統あるがんセンターの総長に就任し、今ひしひしと、責任の重さを実感しています。総長就任の挨拶の前に、4月から移行した独立法人の概要を述べます。

公立病院改革ガイドラインでは経営の効率化、再編・ネットワーク化、運営形態の見直しの3つの視点に立った改革を求めています。経営形態では地方公営企業法全部適用、地方独立行政法人化（非公務員型）指定管理者制度、民間委譲の4つの選択肢を示しています。県立病院は平成17年4月から公営企業法全部適用としてスタートし、医療機能の充実や経営の改善に努め、成果を上げてきました。一方、診療報酬の改定や診療環境の急激な変化に対応するための迅速な措置は地方自治制度による制約を受け、県立病院の役割を十分果たすことが困難になりました。そこで、県立病院は県の組織を離れ、柔軟な病院経営を行うことにより、質の高い、安全で安心な医療を県民の負担を少なくして安定的、継続的に提供し、機能を果たすことになりました。独法化後も当院の使命は変わりませんが、法律上の様々な仕組みがあります。知事は議決を経て中期目標を法人に指示し、法人は目標を達成するために中期計画を作成し、議決を受けて各病院は業務を運営します。運営実績は評価委員会によって評価されます。不採算医療の経費は、県が運営費負担金として負担します。中期目標の期間は平成22年4月からの5年間です。医療機能の充実に努める目標に関して、がんセンターの中期計画では外来及び手術実施体制の整備、充実を図り、平成26年度目標値として、手術件数3,900件、外来化学療法15,000件としています。効率的・効果的な医療の提供によって、より多くの県民に医療を提供し、また医業収益の確保に努める目標に関しては、病床利用率80%以上、平均在院日数16日以下、入院実患者数8,050人以

上をがんセンターの目標値にしています。独法化後は自主性が強化され、中期計画を予定通りに遂行するために病院毎に必要な対策を講じることができます。職員の採用は病院の必要性に応じて迅速な対応が可能となりますが、収益との整合性は必要になり、経営責任は大きくなります。当院は公立病院改革ガイドラインの公立病院 全部適用 独法化まで来ました。経営が改善されなければ次は公設民営化や民間委譲が待っています。今年の診療報酬改定は病院の経営改善に配慮しています。皆さんが適格に専門性を発揮した医療を提供すれば必ず増収になるはずで

がんセンターとこども医療センターは所長から総長に名称が変わり、私が初代総長になりました。職員の皆さんのご協力をいただきまして、微力ではありますが、大任を果たしていきたいと思ひます。どうかよろしくお願い申し上げます。

がんセンターの皆さんに、職員の心構えとして3つお願いがあります。第一に患者さんや家族には優しく、がんには厳しい職員になってください。他人の悩みや痛みを敏感に感じ取る惻隱の心を忘れないで下さい。次に、品格のある職員でいて下さい。自分に厳しく、社会や患者さんの価値観と大きくずれないで下さい。最後に協調性のある職員でいて下さい。医療は国家資格を持った多くの職員で提供されます。お互いの専門性を尊重し、認め合って最高の医療を提供してください。「和を以て貴しとなし」を忘れないで下さい。

病院を運営するにあたっては「質の確保」、「効率性の達成」、「コスト管理の実施」を必須要素として取り組みます。医療評価安全部を新設し、従来から活動している部門に加えて、放射線治療品質保証室、緩和ケアチーム、医療の質評価チームを追加し、質の向上を目指します。手術件数や外来化学療法件数の大幅な増加は新病院までは困難です。従って、新病院がオープンするまでは狩猟型病院ではなく、農耕型病院として、業務を見直し、無駄を省きながら、安全・効率・質の3大肥料を加えて、新病院で提供する「質が高く効率的な医療」を培う期間にしたいと思います。

最後になりますが、職員の皆さんが自分たちの仕事の目的を明確にし、専門性とプライドを持って高いモチベーションを維持しながら、業務に取り組むことができるような神奈川県立がんセンターを引き続き運営していきたいと思ひますので宜しくお願ひします。

就任のごあいさつ

病院長

丸田 壱郎

Atsuo Maruta



4月1日より、地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立がんセンターとなりました。これは医療を実践するにあたり自由度が増えたと同時に責任も増えたということである。これまでのように県に何かを言えば県が行ってくれる、あるいは言っても行ってくれなかったということではなく、病院側が責任を持って提案し実行し、その責任をとるということです。医療の質については勿論、県立であろうとなかろうと変わるべきは無く、異なる点は主として経営的な側面ということです。しかし、行政法人ということは、民営とは異なり、公的な側面も色濃く残しています。土地、建物、設備はもともと県のものであり、県から運営交付金も支給されます。また、医療での経営的側面とは、経済合理性のある効率性です。収益性の高い領域だけをやるということはありません。政策医療として行うべきことは行っていき、神奈川県都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を果たし、県のがん医療の中心的役割を担っていく当病院の立ち位置は少しも変わりません。一方、自由度が高くなることは期待したいところです。DPC導入により、在院日数が短縮し、業務が密になり、職員の定数管理に由来した看護師不足が表面化し、当院の最も深刻な課題となっています。すぐには解決がつかず、病床利用率を落として対応していますが、来年度こそは7:1の基準を余裕をもってクリアしなければなりません。医療の質は、毎日医療に従事し、またそれを支えている院内のすべての職員によりもたらされるものです。昨年12月に行われた患者満足度調査の結果では、建物が古いことが影響していると思われるアメニティ、プライバシーの保護では評価が低かったのですが、職員の丁寧さ、反応の良さ、患者理解、コミュニケーションでは極めて高い評価を得ています。当院が胸を張って誇れることです。医療従事者の満足なくしては、患者さんが満足する安全で良質な医療などあるはずはありません。健全な経営安定がなければ、行うべき医療もできないという状況に陥ってしまいます。各セクションの責任者はこの点をしっかり認識して指導にあたっていただきたい。一方、若手の職員はひたすら質の高い医療を目指していただきたい。独法化されたことが結果として患者さん・ご家族、そして職員、この地域に住む人々の皆が良かったと思えるような生き生きとしたがんセンターを目指したいと考えています。

事務局長

山田 学

Manabu Yamada



平成22年4月1日より、安西前総務局長の後任として、新事務局長に着任しました。

(従来の総務局が事務局に名称変更されましたので、職名も同様「総務局長」から「事務局長」へ変わりました。)

当センターでは、現在、新がんセンターの平成25年開業を目指して総合整備事業を進めています。総合整備推進室に新たなスタッフを迎え、これから近隣住民の皆さんへの事業説明等の対外的な業務もいよいよ本格化していきます。また、26年度導入予定の重粒子線治療施設整備と導入に向けた研修等の準備作業も、独立行政法人放射線医学総合研究所や群馬大学など関係機関からのご協力もいただきながら、並行して進めていくことになります。

こうした動きに加え、4月から、当センターを含む県立6病院の運営主体が、新たに発足した地方独立行政法人神奈川県立病院機構に変わりました。この独立行政法人化に伴い、今後、引続き専門病院として高い医療水準を維持するとともに、サービスの質の向上、経営の効率化といった観点への対応が、ますます求められてきます。

そうした時期に、私が丁度、着任しましたのも、何かの縁とっております。看護師確保・定着対策をはじめ課題が山積する中ですが、良き伝統を守りながら、しっかりと課題に対応できるよう「医療の質の確保」、「効率性の達成」、「コスト管理の実施」を目指し、病院一丸となって取り組んでいきたいと思っております。私も、微力ですが、その一助となれるよう努めてまいりますので、どうぞ宜しくお願いします。

臨床研究所長

高野 康雄

Yasuo Takano



私は、この度、神奈川がんセンター臨床研究所長に赴任しました高野康雄です。宜しくお願い致します。前任地は富山大学で、医学部の病理学の教授をしていました。専門は造血器腫瘍と消化管腫瘍の分子病理学的研究と病理組織学的研究です。もともとの出身は愛知県の豊橋市で、名古屋大学医学部を昭和49年に卒業し、医師としてのスタートは内科医でした。縁があって、癌研究所病理部で病理学を学ぶことになりました。病理学の根

幹は、病理解剖、病理組織診断と病理学的研究ですが、癌研究所病理部で病理医としてのDNAが刷り込まれました。私が癌研究所病理部で病理学を研鑽し始めた頃、菅野晴夫先生が所長で、北川知行先生が病理部長で、まだお二人ともお若く、エネルギーに仕事をされていました。お二人が良く言われていたことは、癌研究所病理部を踏み台にして外界に飛翔せよとのこと。具体的には、大学の教職、他の研究所の責任者などです。私はその路線に沿って仕事をして来たように思います。

私が久しぶりに神奈川県立がんセンターにお伺いしたのは、今年の3月5日のことでした。当時の所長の大崎先生、病院長の小林先生、事務局長の安西さんの面接を受けに来た時です。北里大学に勤めている時に、運転試験場には何回か来ており、二俣川駅から歩いて坂を上り、右手に運転試験場があり、左手は神奈川県立がんセンターが見えて、白亜の大病院であった記憶がありました。神奈川県立がんセンターに入ってみると、記憶とはかなりのギャップがありました。また、臨床研究所に当時の臨床研究所長の土屋先生に案内されると、あまりの狭さに更にびっくりしました。土屋先生から3年後には建て代わるからと慰められたりしました。私が神奈川県立がんセンターに来て、はや3週間が経ちました。臨床研究所の職員が真摯かつ勤勉に研究に励み、また、神奈川県民に公僕として尽くしていることも十分に理解できました。しかし、臨床研究所が研究所として更に飛躍的に発展する素地と余力があるように思えます。将来、臨床研究所の職員が、大学教授、他の研究所の所長、部長に転出するのが当たり前ようになる臨床研究所にしたいと思っています。

副院長

本村 茂樹

Sigeki Motomura



4月1日より副院長に就任致しました。急な昇任であり、後任の腫瘍内科部長をいただかないままの兼任職となりました。外来・入院患者の診療や外来治療室を抱えていますので、皆様には御迷惑を掛けるのではないかと心配しておりますが、精一杯仕事をしようと考えています。

副院長職は医療安全の推進とトラブル処理が主な仕事です。医療安全から言いますと、医師の皆様には是非頭を切り換えていただきたいと思います。現在の医療では「安全が担保されていない診療行為は施行してはいけない」時代になって来ています。これを是非ご理解下さい。安全だと思っても、「人は間違いを犯すもの」です。ダナ・ファーマーでの抗がん剤大量誤投与による医療事故から、「その人が悪いのではなく、システムが悪い」と

いう考えに至った経緯を参考にしなければなりません。がんセンターでは有害事象報告を書くように言われると、「自分が責められている」ように感じる、または「なぜ書かなければいけない」と思う人が多いと思います。しかし、有害事象を検討することは個人を責めることではなく、「リスクを把握し、安全なシステムを構築する」上で大切なことです。大きなリスクのある有害事象はいつしか死亡事故に繋がります。有害事象報告は、皆に知らせ「どうしたら今後防ぐことができるのか」を検討する大切な資料です。むしろ「提出して下さいありがとうございます」というものです。皆様、嫌がらずに是非報告して下さい。我々は日常ではつい流され、十分なリスクの存在を把握していないで診療しているのが現状です。改善のループを作り、医療安全のための真摯な取り組みを今後も続ける必要があります。そのためには、(1)基本を忘れない、手抜きをしない、(2)簡単なシステムを作る、(3)ダブルチェックを行う、(4)医師、看護師、薬剤師などスタッフで情報を共有する、これらがとても大切です。本年度の医療安全の課題は「コミュニケーション」です。医療安全推進室の岸ひろみさんと共に努力致しますので宜しくお願い致します。

看護局長

渡邊 真理

Mari Watanabe



新年度から看護局長に就任いたしました渡邊です。

私は本年3月までの4年間、当院の医療相談支援室長としてがん患者さんとご家族の相談支援と医療連携を担当していました。医療連携先機関の施設長様を始め、医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、福祉施設の相談員などの皆様方には大変お世話になりました。皆様の医療・福祉に取り組まれる姿勢に多くの学びとエネルギーをいただきました。また施設を越えた多職種によるチーム医療の必要性も実感しました。今後とも当院の運営にご協力をお願い申し上げます。

新年度に迎えた新採用看護師の皆さんと話していると、私も??年前に当院の前身である成人病センターに就職した新人ナースだった頃のことを思い出します。がんセンターにずっと勤務しているように思われますが、実はがんセンターには3回転勤で出入りしておりその間、助産師や看護教育など様々な経験をしてきました。その後「がん看護」をより深めたくなり、2003年にがん看護専門看護師の資格を取得し、がん患者さんやそのご家族、がん看護に携わる看護師の支援を悩みながらも実践してきました。

がん医療は目覚しく進歩しています。一方で患者さ

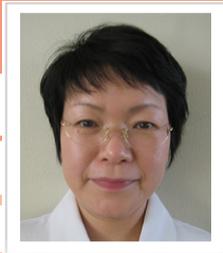
んやご家族はがんになったことで一度は「死」を意識することが少なくありません。またがんになったことで身体的苦痛や再発や転移の不安、家族関係、就労、経済、介護や独居など様々な問題や苦悩を体験されます。そのような状況の中でも一歩前に進めるよう患者さんやご家族に多職種がチーム医療で関わっていく必要性があります。地方独立法人神奈川県立病院機構のがん専門病院として新しい一歩を踏み出した神奈川県立がんセンターが、セクションや職種を越えて「チームがんセンター」として一丸となった組織づくりに貢献できることを願っています。

私は4月から看護局長という重責に緊張しておりますが、神奈川県立がんセンターに受診される患者さんやご家族が安心して安全に医療が受けられるよう、またそれを支えていただく職員が安心して勤務できる職場環境づくりをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

副看護局長

伊藤 清子

Kiyoko Ito



私にとって二俣川の地は、とても縁のあるところです。看護学校時代の5年間、この道を通いました。学校帰りに友達と大笑いしながら帰ったことを思い出します。看護師としてのスタートは、神奈川県立こども医療センターへの就職でした。小児科の看護師になりたくて看護師を選び、こどもたちの笑顔に励まされ看護という職業が大好きになりました。そして11年前、がんセンターへの異動が伝えられました。小児看護の経験しかなく不安でしたが、「看護のこころ」は同じでした。受け入れてくれた看護師のやさしさや患者さんへのあたたかなケア、そして病と闘う患者さんの人間としての強さを目の当たりにしました。4年間の経験でしたが、さらに看護が好きになり、忘れられないたくさん思い出ができました。

今年再び、がんセンターへの異動辞令を手にししました。地方独立行政法人化や新がんセンターへの移転を迎える大切な時期に、副看護局長という重責に緊張しています。着任してから、想像以上の事態が発生していますが、困難な時こそ大きなチャンスです。今回も受け入れてくださったがんセンターの皆様から大きな力を感じています。それは、変革しようという意気込みです。これからの病院は、チーム医療がキーワードだと思っています。多くの職員と助け合いながら、目標を明確にし、「ひとりの患者さん、ひとりの職員を大切にすること」を原点とし、皆様と力を合わせていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

平成22年度がん臨床講座について

神奈川県立がんセンターでは、昨年度に引き続き「がん臨床講座」を毎週水曜日に開講します。医療スタッフ、近隣の医師、薬剤師の方々、職種は問いません。興味のある内容の日にはお気軽にご参加ください。なお、参加をご希望される場合は、事前にご連絡ください。

開講日 毎週水曜日 18時30分～19時30分
 会場 神奈川県立がんセンター
 管理医局棟3階総合診断室
 連絡および問い合わせ先
 神奈川県立がんセンター 企画調査室
 電話 045-391-5761(内線2510)

** がん臨床講座(平成22年度) **

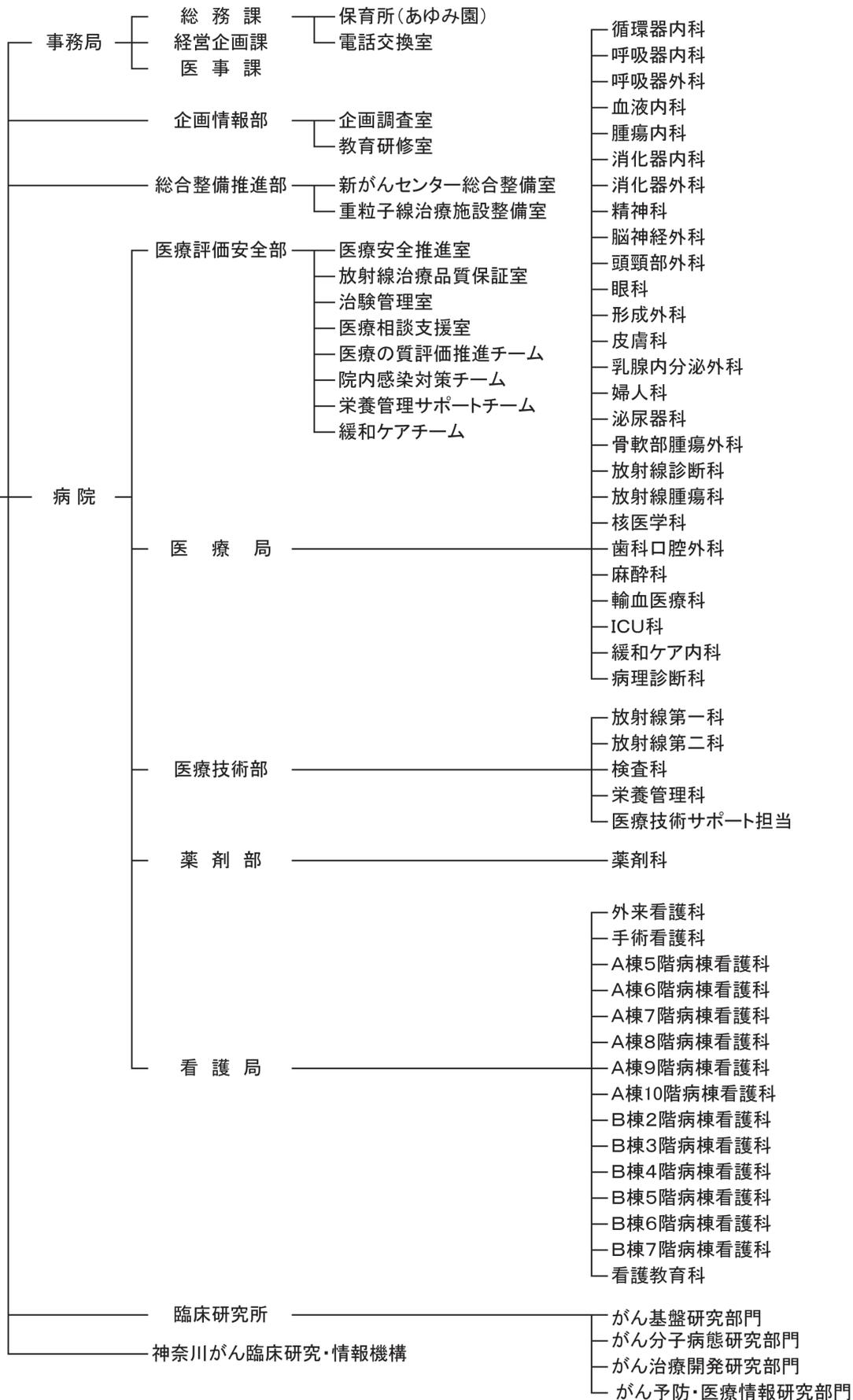
日付	授業名	講師名
4月21日(水)	oncology emergency	本村 茂樹
4月28日(水)	白血病	金森 平和
5月12日(水)	腫瘍病理	横瀬 智之
5月19日(水)	前立腺がん	三浦 猛
5月26日(水)	大規模がんゲノミクスの新展開	宮城 洋平
6月2日(水)	肺がんの外科治療	中山 治彦
6月9日(水)	がんの浸潤・転移抑制をめざして	高橋 和秀
6月16日(水)	胃がん	中山 昇典
6月23日(水)	医学統計学	岡本 直幸
6月30日(水)	小分子RNA	大津 敬
7月7日(水)	膀胱がん	塩井 康一
7月14日(水)	肺腫瘍	佐藤 秀光
9月15日(水)	肺がん・疫学と診断	山田 耕三
9月22日(水)	肺がん治療	尾下 文浩
9月29日(水)	臨床研究セミナー'10年度	円谷 彰
10月6日(水)	放射線治療の臨床試験と品質保証	石倉 聡
10月13日(水)	転移性骨腫瘍の治療	竹山 昌伸
10月20日(水)	悪性リンパ腫	本村 茂樹
10月27日(水)	精巣腫瘍	岸田 健
11月10日(水)	甲状腺がん	吉田 明
11月17日(水)	子宮頸癌	加藤 久盛
11月24日(水)	肝臓がん	上野 誠
12月1日(水)	放射線生物学の基礎	野中 哲生
12月8日(水)	大腸がん	塩澤 学
12月15日(水)	卵巣がん	小野瀬 亮
1月12日(水)	薬剤の吸着について	高田 明美
1月19日(水)	緩和ケア	太田 周平
1月26日(水)	乳がん	清水 哲
2月2日(水)	ESD	本橋 修
2月9日(水)	画像診断・IVR	吉田 哲雄
2月16日(水)	皮膚がん	小川 徹
2月23日(水)	頭頸部がん	古川 まどか
3月2日(水)	不整脈	朝比奈 茂
3月9日(水)	予備日	
3月16日(水)	予備日	
以上33合議+2予備日		

以下の講義は平成23年度以降とする
 基礎編 psycooncology 1 講義
 臨床編 小児腫瘍 1 講義



平成22年度神奈川県立がんセンター組織図

神奈川県立がんセンター



新任の紹介



職員の異動がありましたのでご紹介します。

紙面の都合上、採用・就任された管理職、医師、放射線科技師長、栄養管理科長、医療相談支援室長の紹介に限らせていただきました。

どうぞよろしくお願いいたします。

管理職



総長
小林 理



病院長
丸田 壱郎



事務局長
山田 学



臨床研究所長
高野 康雄



副院長
兼腫瘍内科部長
本村 茂樹



医療技術部長兼
呼吸器外科部長
中山 治彦



看護局長
渡邊 眞理



副看護局長
伊藤 清子



医療局 (常勤医)



放射線治療品質保証
室長兼放射線腫瘍科
医長 石倉 聡
(H.22.3より)



婦人科 医長
川瀬 里衣子
(H.22.1より)



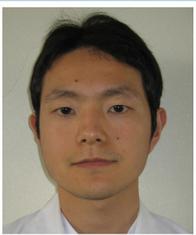
消化器外科
医長
玉川 洋



消化器外科
医長
尾形 高士



放射線診断科
医長
永田 延江



消化器内科
医師
小林 智



血液内科
医師
立花 崇孝



乳腺内分泌外科
医師
山中 隆司



消化器外科
医師
渡辺 隆文



麻酔科
医師
松田 洋子

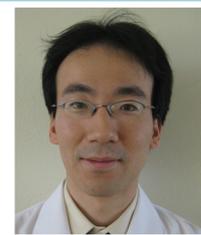
医療局
(任期付
常勤医)



血液内科
医師
沼田 歩



呼吸器外科
医師
名和 公敏



呼吸器内科
医師
村上 修司



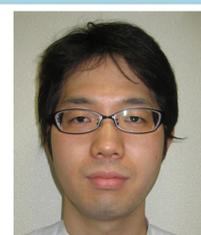
放射線腫瘍科
医師
溝口 信貴



骨軟部腫瘍外科
医師
木村 哲也



消化器外科
医師
渡辺 卓央



消化器外科
医師
青山 徹



消化器外科
医師
林 勉



乳腺内分泌外科
医師
松尾 歩



腫瘍内科
医師
山本 渉



放射線科技師長
小野寺 誠



栄養管理科長
中田 恵津子

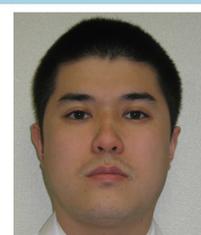
レジデント
(第24期生)



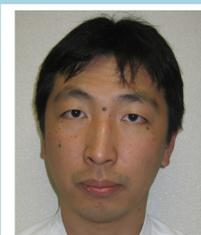
医師
向橋 知江



医師
鷺見 公太



医師
浅見 昌樹



医師
禹 哲漢



医師
濱中 瑠利香



医師
大江 美紀



医療相談支援
室長
清水 奈緒美



看護局ホームページのお知らせ



看護局ホームページは、平成21年度に看護師確保対策の一環として、がんセンター看護局を広く地域に周知し、看護師の採用希望者を一人でも多く集める目的で作成しました。ホームページを立ち上げる際のコネクトは、「安心・希望・将来の夢」としましたので、全体の基調の色は神奈川の青とピンクとし、「あたたかさ・わかりやすさ」を意識しました。他のサイトとの差別化としては、がんセンターのがん看護実践の発信、認定看護師や専門看護師の活動の情報提供や資格取得への支援、教育体制の情報提供、看護局のイベントのお知らせなどを主なメッセージとしています。ホームページ開設後には、就職対象のインターンシップでは9割以上の方がホームページを見て参加をされるなど確実に成果が出ています。

今後の課題としては、タイムリーな情報の更新、潜在看護師や短時間労働者の方が気軽に見学してみたいようなアピール、がん看護情報の提供、関連サイトとのリンクなどを検討しています。他に携帯QRコードもありますのでぜひホームページと共に覗いてみてください。また、ホームページについてのアイデアやご意見は広く受け付けてい

ますので看護局矢野までよろしくお願い致します。
 (看護局副看護局長 矢野久美子)
 神奈川県立がんセンターウェブサイト
<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/gan>

神奈川県立がんセンター
 看護局携帯QRコード



神奈川県立がんセンター 看護教育科 職員募集サイト

看護局

携帯版はこちら

お問合せはこちら

お電話でのお問合せ
045-391-5761

看護局について

イベント案内

看護職員募集

→ 看護局について

- ◎ 看護局長の挨拶
- ◎ ミッション・ビジョン
- ◎ 教育体制
- ◎ セクションの紹介
- ◎ 専門看護師・認定看護師の紹介

→ イベント案内

- ◎ インターンシップ
- ◎ 病院見学会
- ◎ 一日看護体験
- ◎ 公開研修
- ◎ ナースレター

→ 看護職員募集

- ◎ 採用案内
- ◎ 新採用看護師の1年間
- ◎ 福利厚生
- ◎ Q & A
- ◎ ナースの紹介

お知らせ

2010. 5.14 看護の日・看護週間「管理者を探せ」の回答です。皆様おわかりになりましたか？神奈川県立がんセンターの管理者です。よろしくお願ひします。
【正解】①事務局長 山田 学、②総長 小林 理、③企画情報部長 野田 和正、④病院長 丸田 豊郎、⑤看護局長 渡邊 真理、⑥副看護局長 伊藤 清子、⑦副看護局長 矢野 久美子、⑧副院長 本村 茂樹、⑨副院長 赤池 信

2010. 5.10 公開研修 6月5日(土)「専門・認定看護師の実践 ～がん看護の魅力を語る～」の受講募集案内を掲載しました。

ボランティア会ランパスによる患者さんのための 6月木曜ミニコンサート予定表

1回目 PM1:30 ~ 2回目 2:30 ~ 各 20分前後

6月 3日	香田夏織	シャンソン
6月 10日	森本 薫	フルート
6月 17日	本田武久	声楽
6月 24日	山内敦子	声楽
	出口ユミ	ピアノ



平成21年度 1・2・3月

平成22年度 4月

1日平均患者数 (単位:人)

区分	1月	2月	3月	4月
入院	305.7	342.3	321.6	305.1
外来	562.2	584.6	596.7	579.9



新年度とともに人事異動がりましたが、今回は病院そのものも病院事業庁から非公務員型の地方独立行政法人へと異動(?)になりました。端的に言えば、これまでの診療業務主体であったところに経営の視点を加えることとなります。また、診療の質の確保を管掌する部署として、新たに医療評価安全部を設けました。医療安全や化学療法・放射線治療の質の確保、患者さんの相談や感染対策・栄養管理・緩和ケアなどについて総括します。総長の巻頭言にあるように、人には優しくがんには厳しく、そして品格と協調性をもって、安全・安心ながん医療の充実を实践し、広く県民に還元されることを目指して、独法化の海にあらたに船出したところでです。(企画情報部長 野田和正)

編集・発行 : 神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241 0815 横浜市旭区中尾 1 - 1 - 2

TEL 045-391-5761 (内線 2510)

<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/gan/index.htm>